

千葉県生物多様性モデル事業：小山町観音地 森の復元作業 子ども観察会

「秋の森でどんぐり集め」木の里親になって千の苗を育てよう！

武田宏子(千葉市)

日時：2009年11月28日(土) 9:30~12:30 天気：晴

場所：千葉市緑区小山町観音地

主催：森を育てる会 委託：千葉市環境保全推進課

企画・運営：千葉県自然観察指導員協議会

参加者：子ども20名 大人21名

県森林課長(伊藤) 県自然保護課生物多様性戦略室(音谷)

市環境保全推進課(浜野 吉野) 自然観察ちば(赤木)

担当指導員：川北紀子 笹倉裕子 佐藤一枝 須田聰恵 武田宏子 芳我めぐみ 森本勝豊

「あすみが丘」の南向かいにある小山町観音地は、希少生物のいる谷津に囲まれた里山です。しかし、産廃業者によって半分に削られ、樹木も表土もなくなっていました。産業廃棄物処分場計画で無残にも壊されてしまった森(水源涵養林、生物多様性の森)の復元作業を、地元住民と「あすみが丘」の住民(森を守り育てる会)とが協力して行なっています。現在 千本の苗が植えられ、毎月手入れ活動が行われています。今回は、コナラ・クヌギなどの落葉広葉樹の苗を作り植樹する「千の苗・植林プロジェクト」の取り組みです。

空は青空。「昭和の森」への道すがら、子どもたちはきれいに色づいた落ち葉を拾ったり、赤い実を見つけたり、どんぐりを拾ったり… 自然の中で大人たちはより優しく、子どもたちは元気いっぱいでした。

疎林広場では、コナラやクヌギのどんぐりを探しました。葉が落ちて積もった林はふかふか絨毯のようで、いい気持ち。親木においては樹液のにおい。クヌギの葉っぱはぎざぎざがたくさん。どんぐりの帽子はくぶちぶち・しましま・もじゃもじゃとちがっているね。芽が出ているどんぐりもあるよ。子どもたちは、体全体で晩秋の森を味わい、たくさんの発見をしました。

観音地では、落ち葉のプールとシャワーで遊び、その後、ポットにクヌギのどんぐりを3個ずつ蒔きました。この苗を大事に育て、2010年の5月に観音地に植林し、「グリーンウェイブ運動」に参加します。2才から小学校高学年まで年齢差はありましたが、子どもたちが嬉々として活動に参加している姿が心に残りました。

参加者の感想：

どんぐり拾いが楽しかった。

子どもたちとゆっくり自然の中で過ごせて良い気持ち。

これからも、このようなイベントに親子ともに積極的に
かかわっていきたい。ゴミ拾いもしました。



小山町観音地



わたしの秋集め



集めた枯れ葉を
落ち葉のプールへ
よかったですね

